



たてやま

議会だより



いい日旅立ち

—未来を拓く新成人—

平成 23 年
12月定例会

一般会計補正予算	2P
請願・陳情	3P
委員会の審議	4P
一般質問	5P
行政視察報告	11P

No. 42

2012.2.1

発行/立山町議会

責任者/議長窪田一誠

編集/広報特別委員会

よしみねゆ〜ランド温泉権を購入

補正予算 1億 8,651万円を計上

一般会計予算総額 121億 5,175万円に



よしみね温泉権購入費 2,604万円

今までの使用料は毎月 70 万円で、年間 840 万円支払ってきた。今後、安定的な温泉供給が期待できる。

立山町元気交流ステーション・ 立山町交流センター に決定

これまで(仮称)元気創造館と呼ばれていたが、今回、条例で名称を決定した。建物全体を**元気交流ステーション**、図書館と福祉に関する場所を除いた部分は、**交流センター**となる。愛称の「みらいふ」はそのまま使用する。

その他の主な事業

- 災害に強い道路ネットワークの形成事業費 8,666 万円
(立山・上市横断道路事業費や歩道の設置事業など)
- 情報管理事業 3,000 万円
(役場内パソコンを購入する費用)
- まちづくり株式会社への出資金 1,000 万円
(町元気交流ステーションやグリーンパーク吉峰などの株式会社化に向けて) など

平成 23 年 12 月定例会は、12 月 6 日から 20 日までの 15 日間にわたって開かれた。平成 23 年度一般会計補正予算など 9 件、請願・陳情 8 件について審議され、5 件は採択、3 件は不採択になった。議員提出議案は 8 件提出され、すべて可決された。

一般質問では、6 名の議員が町政全般について質問を行った。

平成23年12月定例会 請願・陳情結果

採択

全員賛成

原子力災害対策を重要な項目とする地域防災計画の策定と、北陸電力との安全協定の締結を進めるよう、町長に要請することを求める陳情

請願・陳情者

反原発市民の会・富山 代表 藤岡彰弘

〔趣旨〕ひとたび原発事故が起これば、気象条件によっては、山海の幸を失うのみならず、放射能が降雪とともに富山平野に降り積もる恐れがある。

「障害者総合福祉法のサービスと介護保険法のサービス」を当事者の意思で選択・併用を求める国への意見書についての陳情

請願・陳情者

(社)富山県身体障害者福祉協会

会長 岡本武勇、他5団体

〔趣旨〕現行は介護保険優先原則になっているので、どちらでも選べるように当事者の意思を尊重してほしい。

「介護職員処遇改善交付金事業」を平成24年度以降も継続することを求める国への意見書採択を求める陳情

請願・陳情者

富山県医療労働組合連合会

執行委員長 大浦義憲

〔趣旨〕介護職員の不足が深刻で、その待遇改善のために創設されたこの事業は23年度末で終了するので、継続を求める。

地域を支える地元建設業の健全化に向けた「公契約法（条例）」の制定を求める陳情

請願・陳情者

国土交通省管理職ユニオン

北陸支部支部長 土肥和広

国土交通労働組合北陸建設支部

立山分会分会長 村中俊久

〔趣旨〕建設業では今なお元請けと下請け・孫請けという重層的な関係があり、労働者に対する明瞭な賃金体系が確立していない。建設労働者の雇用・生活を守る。

直轄事業の継続と適正な維持管理、地元建設業への支援を求める陳情

請願・陳情者

国土交通省管理職ユニオン

北陸支部支部長 土肥和広

国土交通労働組合北陸建設支部

立山分会分会長 村中俊久

〔趣旨〕国民の生命・財産を守るために必要な公共事業は、引き続き国がその責任において実施し、国土交通省の地方出先機関を廃止しない。砂防事業を直轄する立山砂防事務所と水谷出張所を存続させる。

不採択

賛成議員少数

年金受給資格期間10年への短縮を求める意見書採択についての請願

請願・陳情者

全日本年金者組合富山支部長 森澤利之

〔不採択理由〕国の年金制度の不十分さに問題があり、受給資格を10年にすると10年しか掛けない者が出るなど、さらに年金財政が悪化する。

無年金・低年金者への基礎年金庫庫負担相当分の支給を求める意見書採択についての請願

請願・陳情者

全日本年金者組合富山支部長 森澤利之

〔不採択理由〕無年金・低年金者となるには理由がある。年金をかけていない人までも救済するのはどうか。年金を掛ける者がさらにいなくなる。

財源を消費税によらない最低保障年金制度の創設を求める意見書採択についての請願

請願・陳情者

全日本年金者組合富山支部長 森澤利之

〔不採択理由〕前2件の請願と同じ趣旨である。消費税に頼らないで、賄える財源は他にあるのか。

総務教育常任委員会

全国・北信越大会に出場する
中学生への助成金アップ

教育委員会

Q 全国大会などに参加する中学生の補助金が引き上げられた。その内容は。

A 大会参加費・交通費・宿泊費・食事代に係る経費の3分の2と、生徒一人あたり5千円を補助する。

Q 連合青年団OB会からの寄付金は、趣旨に合った使い道か。

A 寄付者の趣旨は、青少年健全育成であった。図書館は幅広い年代の方々が利用しており、図書館の蔵書用ICタグを取り付けることで利便性も向上する。

企画政策課

Q 交流センターの使用料の設定基準は。

A 使用料の算定にあたり、町民会館等の料金を参考にした。利用内容により減免措置への対応を検討する。

Q 「まちづくり会社」の管理・経費については。

A 公募という形をとらず、指定管理者による管理を想定している。経費は、県内の類似施設等を調査し試算する。

総務課

Q 旧利田保育所跡地の活用方法は。

A 条件付公募提案型によって売却を行う。残地部分に医療福祉関係施設の誘致提案があり、今後検討をしていきたい。

Q 吉峰の温泉源の権利取得による利点と、今後のメンテナンスは。

A 毎月70万円くらいの使用料を支出している。財政面で将来的に負担が軽減されることや安定的な温泉の供給ができる。ポンプ入替後の取得なのでメンテナンスの負担はあまりかからない。

産業厚生常任委員会

弥陀ヶ原と大日平のラムサール条約
登録に向けシンポジウムを開催

商工観光課

Q 観光対策事業の内容は。

A 弥陀ヶ原と大日平のラムサール条約登録に向け、平成24年2月に、学識経験者による基調講演やパネルディスカッション形式のシンポジウムを開催する予定である。環境庁が主催し、町が後援するもので、今後の環境保全や登録後の活用について広くPRしたい。

Q 観光庁のプラットフォーム事業の内容は。

A 広域的に立山黒部アルペンルート観光客誘致に努めるものである。各種のPR活動

や、タッチパネル式の観光案内の設置、着地型観光を目指した、パインレットの作成などである。

健康福祉課

Q 延長保育をしている保育所は、入所見えない保育所は、入所見が減って廃所になるケースもある。延長保育を考えてはどうか。

A 延長保育を新たに始めると、保育士の増員が必要。その分の費用は保育料が値上げとなり、保護者に負担増を強いることになる。新たに延長保育をする予定はない。

住民環境課

Q 生ゴミ堆肥化事業

で、成分分析の表示や販売価格はどうか。
A 肥料取締法に基づき県からの指示で、窒素・リン酸・カリなどの6項目の成分分析と、水銀・ヒ素・カドミウムの有無の検査を行い、袋に表示する。販売価格は、他の自治体の販売例を参考に決定したい。

建設課

Q 女川新浦田線の工事は、予定より早期に完成は可能か。

A 平成24、25年度に県道富山立山魚津線との交差点改良等の工事を行う予定。少しでも早く供用したい。

亀山 彰議員 一般質問



交通

北陸新幹線に伴う 在来線への負担金は

負担金は1,100万円
経営安定化基金を協議

議員 並行在来線の第三セクター会社への町の負担金と、その対応は。また、赤字が予想されるが追加負担金が発生しないか。地鉄立山線への配慮を要望すべきでは。

町長 各市町村の規模や人口をベースに検討を行い、立山町は、1、100万円と試算されている。算出根拠も納得しており、応えていく。

安全・安心

震災で発生した がれきへの対応は

地域住民の安全・安心確保を
最優先に

追加負担金が発生しないよう初期投資をできるだけ抑制する。経営安定化基金の設置が検討されている。十分に協議したい。
並行在来線対策協議会の場などを通じて要請を行っている。新幹線との接続や、関西方面への利便性確保など、関係市町村と共に働きかけを強めていく。

環境

家庭にやさしい生ゴミ処理機を

デイスポージャーの使用を検討

議員 生ごみ処理機への補助は、今後行うのか。

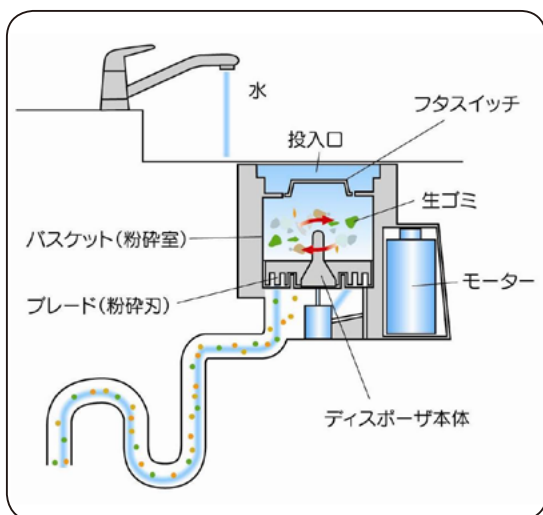
また、生ゴミ処理機の普及が進まない現状を踏まえ、デイスポージャー（台所の生ゴミを砕いて、水と一緒に下水道に流しこむ機械）

の使用を検討すべきでは。

住民環境課長 生ごみ処理機は可燃ごみ減量に効果があるので、引き続き補助を行いたい。デイスポージャーの使用については、下水道

議員 がれき処理について慎重な対応を求めているが、町の方針は。

町長 現状では、放射能物質による汚染された廃棄物について安全か危険かの線引きは困難である。受入れ側の住民の安全・安心な生活環境を守ることを最優先に考えており慎重に対応していきたい。

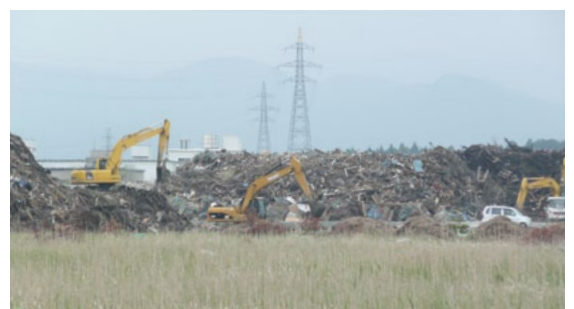


デイスポージャーのしくみ

全体への影響も小さく可燃ごみの減量の効果が期待できる。補助の

あり方も含めて今後検討していきたい。

被災地のがれきの山



石川孝一議員 一般質問



完成までの工期は、 工期延長と交付金については

これ以上の延長は避けたい
交付金は返還にならない

元気創造館

議員 工期の3ヶ月延長が提案された。工期がこれ以上延長されないことと、国からの交付金、補助金の返還が求められる事態にならないと言えるか。

町長 これ以上の工期延長は避けたいが、何よりも「適正に施工されること、工事の安全」が最優先。県・国と連絡を密にし、必要な助言を受けており、交付金は返還にならないと考えている。

地域芸能



新瀬戸小学校児童による池田浄瑠璃

地域の芸能文化継承のために イベント・交流の企画を

企画内容を検討したい

議員 池田浄瑠璃と、県内各地の伝統芸能を継承している地区との交流や、立山町の獅子舞・御輿などを一堂に集めたイベントなどを企画しては。

教育長 池田浄瑠璃は約400年ほど前に始まり、現在、新瀬戸小学校5・6年生の児童によって受け継がれ、

学習発表会や慰問など積極的に活動している。他地区との交流は、継承活動に新たな発展性を与えるものと期待でき、検討したい。

また、立山町には、8件の町指定民俗文化財や14件の獅子舞をはじめ、多くの伝統芸能が大切に受け継がれている。

平成15年に町政50周

年記念事業として「立山町民舞民謡まつり」が行われた。このようなイベントは町内外に町の豊かな芸能文化を発信でき、継承活動が活性化するきっかけにもなる。どのような企画が有意義か、関係者と検討していきたい。

放射能対策

放射能汚染対策に、具体策を

放射線量計など 町独自の設置はしない

議員 町民の安心につながるモニタリングポストと放射線量計の設置を。また、原発災害時の避難方法および、避難所の指定を。

その他の質問

- ・パークゴルフ場の新増設に工夫を
- ・並行在来線の負担と、町の対応は
- ・立山地区の歴史・文化継承について
- ・小水力発電の推進を

副町長 県は6月に県内各市町村で放射線の測定をした。立山町役場では、0.058マイクロシーベルトであり、福島第一原発の影響は認められない。費用、人件費から、町独自の設置はしない。

また、原子力委員会の新たな指針で、志賀原発の緊急防護措置区域（30km圏内）、放射性ヨウ素防護地域（50km圏内）から外れている立山町は、直ちに人体への影響は想定されていない。今後、県地域防災計画の原子力災害対策の見直しにより、必要があれば避難方法や避難所等の検討をしたい。

町田信子議員 一般質問



町のイメージ

「ゆるキャラ」を導入し町のイメージアップを

親しまれる

マスコットキャラクターに

議員 町のイメージアップを図るために「ゆるキャラ」を導入してはどうか。

町長 「雷鳥サンダー君」の所有権を持つていた株式会社インテックと、所有権の無償譲渡契約を11月に締結しており、町のマスコットキャラクターとしての活用を検討している。今後、役場正面駐車場の県道沿いの看板を



雷鳥サンダーくん

教育長 富山県内の小

議員 子どもの運動能力低下防止対策を

みんなでチャレンジ3015を実施

子どもの運動能力低下を防ぐための対策は

体力づくり

町のPR用に活用する予定である。その看板に立山町の観光地写真とともに「雷鳥サンダーくん」を掲載し、町外からの観光客や、広く町民に親しまれるマスコットキャラクターとして定着させていきたい。

納税

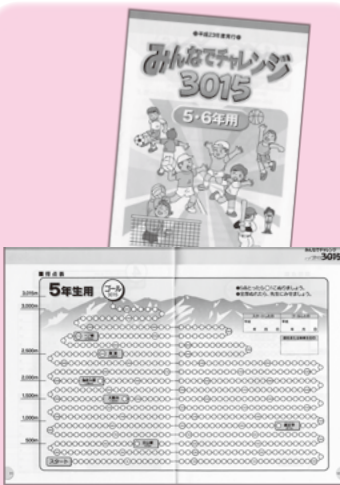
近い将来、コンビニ納税は実現するか

しばらくは口座振替で

議員 コンビニ納税を導入する考えはないか。

副町長 コンビニ納税を導入すると、納付書・督促状などの印刷等で、年間約375万円位の経費増と考えている。さらに、納税にかかる経費として、各コンビニで納付された

お金やデータを取りまとして町へ送金・送信する納税代行機関への委託料がかかる。現在、金融機関への1件当りの取扱手数料は10円だが、コンビニ納税では約60円となる。しばらくは口座振替を推進し、納付をお願いしたい。



県内の小学校で使用されている「体力づくりノート」



学校では、体育の授業の充実を図るとともに昭和59年度より、子どもたちの運動習慣の定

着を図るため、体力づくりノート「みんなでチャレンジ3015」を毎年実施している。目標達成率が毎年増加し、昨年度は90%以上の達成率を示すなど、その効果が十分にある。

その他の質問

- 24時間、365日対応する地域ケアシステムに向けての準備について
- 教員のメンタルヘルス対策の推進を「脳脊髄液減少症」対策を
- あいさつ通りの標語の見直しを

後藤智文議員 一般質問



町民生活を破壊する TPP 反対の意思表示を

国に対し、強く要請

TPP

議員 TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）について、町長は提案理由説明で危惧される三つの点を表明した。

世界人口の増加で食糧危機が起こること、中山間地域農業の破壊で、国全体が荒れ、国が滅びること、国民皆保険制度の破壊と表明されたが、反対という明確な意思表示はされていない。意思表示をすべきではないか。

また、長野県松川村では、役場庁舎正面に反対の垂れ幕を出している。立山町も垂れ幕を出してアピールすべきではないか。

町長 米作中心の本町の農業に極めて大きな影響が生じると認識しているので、農業者の所得を確保する対策を講ずることなどを強く要請している。庁舎正面への垂れ幕は考えていない。



緑豊かなグリーンパーク吉峰（パークゴルフ場）

施設管理

グリーンパーク吉峰・元気創造館 なぜ株式会社なのか

民間資本で資金力の強化 町が責任を持つ

議員 グリーンパーク吉峰と元気創造館などを株式会社にするというが、グリーンパーク

吉峰の役割は「住民福祉の向上」とあり、元気創造館も福祉部門が大半を占める。福祉

と株式会社は相反するのではないか。

町長 地域再生対策協

議会の中に、グリーンパーク吉峰再生部会を設け、外部専門委員や金融機関などからのアドバイスを受けた。その結果、株式会社に移行することが望ましいということになった。収支改善のために民間資本の活用が必要だ。

グリーンパーク吉峰と（仮称）元気創造館の管理運営については、どのような指定管理者になっても「公の施設」として町が責任を持ち続けるので、福祉に相反することはない。

その他の質問

- 過疎化対策のために南部・東部地域で延長保育できる保育所を
- 中学3年生までの医療費の無料化を
- 大学生に奨学金の復活を
- 中学校で必修化される武道で、危険性の高い柔道は安全対策を
- 立山カルデラフィールドミュージアムの整備に力を
- 「黒四ダムへようこそ立山町」という垂れ幕などの設置を
- 尖山登山道にトイレの設置を。せめて夏場は仮設トイレを
- 住宅リフォーム補助制度を創設し、地域商工業の活性化を
- 町民生活に直結する道路維持予算は、新年度予算で増額を
- 岩崎寺駅踏切から岩崎雄山神社までの道路と側溝の改修を

高嶋清光議員 一般質問



中山間地対策

中山間地における人口減少に町としての対策を

地域の活力・魅力を増し 触れ合う機会の創出

議員 立山町の人口

は、27,623人だが、これまでの10年間で858人減少しており、特に著しい減少地域は上段405人と、町全体の半数近くがこの地域に集中している。

立山・上段・東谷地域の15年、20年後には、集落の維持管理ができない。町長はどのように思い、どのような対策をとるのか。

町長 中山間地域で人口減少や少子高齢化が進んでいることはわかっている。

若者の定住を図るために、地域の活力・魅力を更に増し、ふれあ

う機会の創出に努め、

地域を思う意識の醸成を図ることも重要であると考えている。

15年、20年後、集落の維持管理が困難になると思われる10世帯未満の集落が、立山・上段・東谷地域において13集落ある。

地域おこし協力隊・特産品コーデイネーターを配置し、さらに

里山対策検討委員会での検討を指示している。

郷土資料館として使用されている旧谷口小学校



過疎

保育所・学校がなくなる

過疎化を危惧、地域住民と協働

議員

以前から町に対し、対策を打つようと議会のたびごと願っていたが、千垣・東谷・芦峯保育所、谷



休所中の東谷保育所

口・東峯・立山芦峯小学校、上東中学校が休廃校となった。町長に、この対策と、今の思いを。

町長 上段・東谷・立山地域においては、近年、学校の休廃校、保育所の休所が進み、町としても、地域の中心的な施設がなくなることは、より一層過疎化が進むのではないかと危惧している。

町で今できることは何か、対策などを片内で話し合い、地域を支えている住民の皆様と協働する。

元気創造館

文字・絵を 足で踏むのは どうか

参加者に あらかじめ説明

議員 みらいぶレンガ

と言つて、町民、特に子供達が、絵や文字・自分の名前等を彫刻したものを床面や通路に敷き、不特定者が足で踏むのは如何なものか。壁面に変更できないか。

町長 壁面に変更する場合、工事費の増額という事も考えられる。

自分の文字や絵が踏まれることに抵抗を感じる方もあるかと思いが、参加者にあらかじめ説明している。決して意図的に踏みつけたり、粗末にしたりするものではない。

その他の質問

・グリーンパーク吉峰の株式化について

伊東幸一議員 一般質問



県外出場支援

雄山中学校、全国駅伝大会に出場 町の積極的な応援を

生徒たちの頑張りに 出来る限り援助する

議員 町長が先頭になつて応援に出向くなど、町としても支援すべきではないか。

町長 私も現地に赴き町の勇士たちを精一杯応援する。本年度から補助金額を必要経費の2分の1から3分の2へ引き上げて拡充。加えて激励費として大会に出場する選手一人あ



大活躍した雄山中学校の選手たち

たり5千円を支給する。

駅伝競走に限らず、これ

まで以上に生徒たちの頑張

りに対して、町としてでき

る限り援助していく。



庁舎内

役場内の取組みについて、 節電・あいさつ運動

節電対策継続 あいさつ通りは検討

議員 年間を通じた恒常的な節電対策を講じるべきでないか。役場庁舎内をあいさつ通りにするなど、あいさつ運動を展開してはどうか。

総務課長 6月から省エネ、節電に取り組んでいる。7月は約17%、8月は約15%の削減と、大きな成果をあげる事ができた。節電対策を継続し、地域温暖化並びに経費削減に努める。

あいさつは無論のこと、声かけや満足いただけの適切な接遇を行い、住民に気軽に気持ちよく役場を利用していただけるよう心がける。「あいさつ通り」については検討する。

その他の質問

- 美しい日本語、最近の言葉遣いについて
- 6次産業化への取り組みについて
- 水と緑の森づくり税の関連事業について
- 土地改良区の運営実態と支援策について
- 町税悪質滞納者対策

議会運営委員会

議会基本条例について

長野県大町市

議会運営委員会では、11月9日長野県大町市を訪れ、「大町市議会基本条例」の視察研修を行った。

大町市議会では、一問一答制の導入や、インターネット配信など、開かれた議会を目指して議会改革や議会活性化に取り組んできた。これまでの取り組みをさらに発展させ、市民に信頼され、市民とともに歩む議会を目指し、市民福祉の向上と豊かなまちづくりの実現に寄与することを目的に、議会基本条例を策定した。

策定までの経緯は、定例会ごとに議会全員協議会で協議し、議員全員の参加による基本条例に関する学習会を開催した。また、市民との意見交換会や、条例素案についての意見も募集するなど、市民の声を反映するように努めた。



大町市議会にて研修

策定後の運営は、議会に政策調整委員会を設置し、議員は市民の代表としての立場を自覚し、市民からの意見を直接聞く意見交換会を年1回以上開催している。これにより議員の士気も向上した。

わが町の議会運営等にも活用できるものがあれば、ぜひ取り入れていきたい。

参加者

- 委員長 坂井立朗
- 副委員長 米田俊信
- 委員 石川孝一
- 委員 村田昭
- 委員 高嶋清光
- 議長 窪田一誠

立山自然保護特別委員会

自然保護と観光の両立

長野県戸隠観光協会

11月11日、戸隠の観光と自然保護対策について研修を行うため、長野市にある戸隠観光協会を訪問した。

「立山町の長倉や座主坊を思わせる山村に、なぜ年間150万人を超える観光客が訪れるのか」と不思議で、観光協会の取組みに興味を覚えた。

戸隠の観光スポット

として、まず第一に挙げられるのは、奥社・中社・宝光社・九頭龍社・火之御子社の五社からなる戸隠神社であり、創建以来2千年余りに及ぶ歴史がある。

また、戸隠そばも有名で、食べ歩きができる戸隠そば祭りは、毎年11月に行われ、多くの人々で賑わうとのこと。



戸隠観光協会にて研修

しかし、年間150万人の観光客が訪れる戸隠にも悩みがあり、戸隠神社奥社へと向かう参道の樹齢400年を超える巨大な杉並木は、パワースポットブーム

による観光客の増加に伴い、木の根っこがたくさんの人に踏まれて痛む、あるいは樹皮をめくられるという被害が目立ち、対策に頭を痛めている。

行政視察を通して思ったのは、立山などの自然の宝や、先人から受け継いだ伝統や文化・芸能をいかに活用し保護していくか、そして、いかに大切に子孫へと引き継いでいくかということであった。

参加者

- 委員長 米田俊信
- 副委員長 桑原米蔵
- 委員 坂井立朗
- 委員 窪田一誠
- 委員 村田昭
- 委員 高嶋清光

議会広報特別委員会

「知りたい」「知らせたい」を大切に

石川県津幡町・志賀町



志賀町議会にて研修

10月31日に、石川県の津幡町と志賀町の議会広報特別委員会を訪問し、それぞれの「議会だより」に関して学習してきた。

津幡町で学んだことは、紙面の字が大きく、内容が非常に分かりやすく配置されていること。例えば、補正予算や委員会審議の内容は、町民に直接かわるものだけをピックアップアップしていた。

他の質問」として簡略化していた。

広報委員の選び方は、常任委員会の委員長・副委員長を選び、そのうえで自らやりたい議員を優先しているとのことだ。

志賀町で学んだことは、情報公開を心がけていて、当局提案の議案などに対して、議員の賛否も必ず掲載しているということ。

役所言葉や専門用語は、「言い換え」の本を使って読者に分かりやすいように直していた。石川県では町村議会に「議会広報クリニック」のシステムを設け、お互いに指摘し合って、評価・批判

されたらすぐに次回から手直ししているとのこと。わが県には相互批判の場がなく、わが町は唯我独尊になっていたように思う。

今回の視察の中で一番の収穫は、広報委員がだれの立場で編集しているのかということ。ただ事実を知らせるだけでなく、「町民が知りたいと思うこと」「議会がぜひ知らせたいと思うこと」を十分に吟味して、分かりやすく、さらに、議会の動きも町民に理解してもらえらるような「議会だより」を目指してがんばっていかなければと思った。

参加者

- 委員長 町田信子
- 副委員長 後藤智文
- 委員 亀山 彰
- 佐藤康弘
- 伊東幸一
- 石川孝一

あとがき

昨年の広報特別委員会の視察を終えて、今回の議会だよりに取り組みました。「知りたい」「知らせたい」内容は何かという観点から、読者にどうすれば読んでもらえるのかと試行錯誤を重ねてきました。

その結果がこの42号になりましたが、意図したことがうまく伝わっているのか、読んでもらえるのかという不安があります。

今後とも読みやすい紙面にしていこうと思いますので、ご意見があればぜひお聞かせください。

まだまだ寒い日が続きます。風邪など引かないように健康に気をつけてお過ごしください。

(後藤記)

議会広報特別委員会

- 委員長 町田信子
- 副委員長 後藤智文
- 委員 亀山 彰
- 佐藤康弘
- 伊東幸一
- 石川孝一

議場の花

雄山家政専修学校
(吉本澄子校長)



議会や議会だよりについてのみなさんのご意見・ご感想は

立山町議会内
議会だより係

TEL 462-9984 (直通)
TEL 463-1121 (代)
FAX 464-1118

立山町議会事務局
〒930-0292 富山県中新川郡立山町前沢2440
ホームページ <http://www.town.tateyama.toyama.jp/> [議会会議録]もご覧ください。